



平成23年度

大正大学 協定留学

日本留学で学んだこと



易	丹	韻	北京大学
趙		曦	北京大学
戴	琳	娜	上海大学
吳	自	雲	河南大学
陳		妍	河南大学
韓		旭	河南大学
趙	紅	旭	河南大学
齊	璐	璐	河南大学
郭	惠	珍	東西大学校



原文をそのまま印刷しました。

大正大学学務支援課国際担当

一年の短期留学生活もうもうすぐ終わります。その一年の間に、様々な人々に出会って、いろいろな面白を体験しました。今はこのレポートを書きながら、たくさんの経験を思い出して本当に愉快になりました。

異文化と生活の体験

日本と中国は一衣帶水の隣国ですから、文化も生活上の慣習もよく似ています。中国人の私は、日本に着いてから、すぐに日本の生活に慣れました。しかし、国によって、文化は違う点を持っています。さらに、その差別はまさに文化の特異を反映できるものです。ではその特異な点を指摘します：

A.冷たい食べものが好きな日本人

夏になると、スーパーで冷やし中華や冷たいお菓子や甘酒などの猛暑の対策するものが人々に大人気になります。町にたくさんある販売機がビールや飲み物を冷やしています。冬も冷たい飲み物がいっぱいあって、飲食店がいつも冷たい水やお茶を出しています。我が国の人々、冷たいのより、温かい食べ物のほうが好きです。特に冬になると、冷たい水を飲んでいる人はほとんどいません。なぜか日本人がそんなに冷たい食べ物を好みます。その飲食上の習慣は冷たいお弁当がよく食べられるのにかかわるかもしれません。

B.迷惑をかけないと人身事故

「日本人は丁寧ですね！」そういう鮮やかな日本人のイメージが私の心に深い印象を残しています。他人の気持ちを気にかけて、他人に迷惑をかけないように自分が必ず社交のマナーを守ります。

東京では電車が一番重要な交通手段です。毎朝混んでいる電車が埼京線や山手線などを走っています。電車のおかげで通学している人や通勤している人が時間とおりに出席することができます。しかし、私が電車を乗るときに人身事故が起こったというお知らせをよく見かけます。人身事故にあったら、電車の運転を見合わせらなければならないのです。本当に大変な迷惑なのです。人身事故での犠牲者の中に、ほとんどは自殺する人です。自分を殺したという行為の為に電車の運転が中止し、何万人も遅刻しなければならないという可能性があります。なぜ他人に迷惑をかけたがらない日本人はそんなに迷惑をかける自殺方法を選択しますか？たぶんそれが社会のプレッシャーに苦しむ人生の最後の勝手に行動する機会でしょう。

学習の体験

大正大学では私が面白かった仏教学部の授業を受けました。

特に桜庭先生の仏教美術に関する授業。その授業は桜庭先生が私たちに仏像の作り方を教えていただきました。そういう技法は天平時代から伝わってきた脱干漆ということです。

塩入先生の天台信仰の文化財を受けてから、日本の天台宗や密宗の歴史を深く理解しました。

日本語の授業も意義を持っています。大野先生が中国の文化や言葉にとても興味を持って、先生の授業を受けてから、中国も日本も文化の特異性がよく分かる。

漆先生は心が優しくて、いろいろな生粋の日本語を教えていただきました。小島先生と横道先生の授業を受けてから、日本語の能力が向上したいです。

本当にありがとうございます！

Graduation Report

Time flies. My study in Taisho University will end this month. During this exchange semester, I learnt a lot, gained a lot and experienced a lot. I deeply appreciated the smile of Mr. Sakamoto that impressed on me the friendliness of Japanese people; in addition, it is the patience of Mr. Sakurai that helped me out when I got problem of understanding Japanese. With their generous help, my life in Japan became less difficult than I had thought before. I love the time in Taisho, I love my friends here, and I love every place in Japan where I stepped on.

I was supposed to experience a different culture, and complete my research about culture and culture communication. Thanks to my teachers and friends, I think I almost finished my work here.

Actually, to get a kind of culture contact is one of my motivations and purposes of coming to Japan. As a master student majored in philosophy, I believed that any attempt to understand culture in a conceptual way can achieve nothing but confuse us with sophisticated explanations. The only right way to connect with a foreign culture is to feel it lively, to touch it emotionally, and to be part of it as those local people do.

Therefore, during the time in Japan, I tried to focus on eating, dressing, talking and almost every aspect of my life. Eating sweets and snacks with my classmates in Ikebukro, I sensed the influence of modern civilization on Japanese culture; Joining the yukata party with members of taisho salon, I encountered the tradition that permeates Japanese people's everyday life; Visiting the Tokyo National Museum in Ueno, I was moved by this Japanese page in the book of history.



It is really hard to be accepted by a foreign culture, even if you endeavor to be part of it. However, thanks to my lovely friends and kind teachers who filled my pursuing of understanding a foreign culture with smile and happiness, I experienced Japanese culture vividly.

I always talked with my friends about my opinion of culture. Sharing my thoughts and opinions with them made me really happy, and their ideas and suggestions always helped me to reorganize my thoughts; In addition, their special experience always brought me some brand new ways to understand culture. In this report I'd like to share some of those thoughts about culture. I am writing this to be a kind of summary of my life in Japan.

In fact, Japan is a country that emphasize on rituals and ceremonies. This is quite interesting, so I put this as a part of research on international culture. It seems that rituals and ceremonies help define a culture. Without them, societies or groups of people have a diminished sense of who they are.

Nevertheless, how can people maintain and gain their sense of self? Do rituals and ceremonies help define a culture? Admittedly, there are various ways, aside from rituals and ceremonies, for human being to define themselves, for example socialization which plays a key role in everyone's identification with themselves. However, in my view, in face of other factors, the fundamental effect of rituals and ceremonies is mere masked or suspend.

Some other factors, such as socialization, indeed of great importance in define societies and people, which is quite distinguishing with rituals and ceremonies. Any one progress to social world would prefer to join exclusive social groups, in that case, their early recognition that they have no idea about their identification and status in everyday life may evolves into a innate desire to establish their own societal living model and gradually define themselves through the smile of



other peers, or of friends and parents. It is true there are plenty of factors, similar to socialization, which can help groups of people have a strong sense of who they are, then society that is the constitution of groups of people will be defined as well.

Notwithstanding the significance of those factors, in my view, it is the conventional rituals and ceremonies that determine those factors. Consider, for instance, the socialization above which is indeed effective on human's gaining sense of self. At bottom of the so called socialization lies the truth that socializing with others, some actually confirm themselves to accept a certain kinds of rituals and ceremonies that belong to these social groups. In fact, almost every social group contains exclusive rituals, rules, or ceremonies to further distinguish the members of the group to the others. Accordingly, rituals of ceremonies become a typical symbol of people's socialization, and deeply determined people's sense of who they are, while the societies as well.

In fact, the importance of rituals and ceremonies has been unconsciously forgotten since ancient Greek, and it is high time that we should reconsider these influential factors so as to understand the intrinsic way through which people define themselves. As Gadamer, the famous philosophy in hermeneutics, put, when it comes to rituals and ceremonies, people always feel different, and to some extent saint as well. People enjoin these types of feelings, and during these certain periods people certainly sure about themselves, moreover, they could even feel their existence at a visceral level. In addition, various rituals and ceremonies constitute the core of a certain culture, and then the society can be equally defined in the almost same way. Even, to understand rituals and ceremonies in a Nietzschean way, we may infer that it is in the rituals and ceremonies that we are facing ourselves, otherwise during the every day life we just plight ourselves in the morass of fictional world.





日本に留学して

上海大学 戴 リンナ

振り返ってみれば、空港からみんな力を合わせて荷物を家まで搬送してきた情景は、まるで昨日が起きたことだ。この短いような長いような一年間は、今までの人生で一番有意義の時期だと思われる。以下は各方面的成果報告。

一、生活面

高校から寮生活をしていたけど、親の目から離れる生活に憧れる。好きなように好きなことができるから。実際、離れたからこそ、二回目物心がついた気がした。常識問題を聞いたり、悩み相談をしたりしただけではなく、祝日や誕生日のお祝いも忘れない。これらのことは本当に離れないと気付かないことだ。

また、一緒にきた友達と二人で同じ部屋で暮らすことも様々なことを教えてくれた。不愉快なことがあったけど、二人で落ち着いて話し合うことが大切だ。ライフスタイルが違うけど、お互いにすこし我慢すれば乗り越える。何とかならない場合、二人で相談し、先生にも助けていただいた。

二、学習面

授業担当の先生には感心した。さすが何年間も留学生の授業をしていた先生だから、留学生が知りたいこと、よく間違えたこと、何でも知っている。授業は授業だけではなく、異文化交流の雰囲気も漂っていた。一つの文化については、先生は各国の学生に聞き、比べてまとめる。今も「いま勉強しないと未来の旦那さんが変わるわ」という韓国の勉強標語が思い出せる。

また、大野先生の授業のおかげで、卒論のテーマが決めたのも喜ぶことだ。コンビニの話がおもしろいと考えるため、コンビニ関連のことを書くことにした。内容は違うけど、やはり先生の授業があつてはじめて、卒論ができるような気がした。それからの半年間、区立図書館へ本の貸し出しをしたり、資料をスキャナで導入したりして、国内のクラスメートにうらやましいほどの日本語文献を集められた。

一方、鎌倉、江戸東京博物館、歌舞伎教室の三つの文化研修の開設も役に立つとこだ。歴史や文化を習得しながら、みんなが仲良くなってきた。

三、生活体験面

①日本語先生のボランティア

「みんなの日本語塾」で日本語先生をやったことがある。資格外活動許可がまだ許さない12月までは、先輩が教えた日本語教室で日本語を教えた。学生は中国人やインド人、タイの小学生もいた。みんなちゃんとした仕事があるけど、日本語を身につくためにここに来たんだ。もともと違う道を歩んでいる人々は同じ夢で、同じ教室に座るということは実に不思議なことだ。ボランティアだから、時給はすぐない。けれども、世界各国の人と話せることで英語のレベルが上がり、他国の文化にも興味を持ち、ありえない体験だと思う。

②アルバイト探し

日本語学科の学生としては、日本語は唯一の長所かもしれない。それにしても、日本語はよく話せない。経験が一切ない、ビザが来年までという現状は一番大きな問題だ。電話で断れたこともあり、面接後何も知られてくれなかつたこともある。日本人に聞かなければ、「採用しなければなぜ電話するの」との文化は知らなかつた。一言でいえば、アルバイトを探すのは、想像より難しいことで、しかもつらいことだ。

③蕎麦屋のアルバイト

2月から3月までは友達が帰国した時期で、ちょうど私の冬休みだった。アルバイト探しの絶望に落ち込んだ私は「あなたの代わりに二ヶ月やる」と希望した。そして、正式的とはいえないけどアルバイトは意外と簡単に始まつた。満客の日に深夜までやり続け、酒臭いが溢れる終電で、棒になつた足に支えて帰る、このような生活は今思えば、つらいけど甘みが満ちている。30日に給料をもらつたとき、自分の存在感が一番強いときだつた。たまに叱られたのだけど、「間違えないと叱らない」と店長の立場から考えると、謝つて頑張る。日本人が何につけても、「お客様は一番、こだわらなきや絶対だめ」とのやり方からも、私は「他人への思いやり」を学んだ。

④旅行

日本へ来る前に、行きたいところをリストに書いたんだ。旅行も文化を知るための方式と思うからだ。祝日や連休の何週間も前から、観光情報の調べからホテルの予約まで、全部自分でやつたのだ。都市から離れ、自然に触れ合い、この目で見ることやこのこころで感じることを書き、みんなで分かち合うことは、本当にすばらしい体験だ。栃木県日光、静岡県伊豆、富士山、神奈川県鎌倉、千葉県TDL&TDS、東京都東京タワー、三鷹美術館、浅草初詣等々から——今まで足跡が構成された。

まとめ

今はこの充実した一年間は終わりそうだ。惜しいんだけど、しかたない。一番言いたいことは「留学にきて良かった」。簡単すぎただけど、複雑な気持ちを含んでいる。機械があれば、銀杏の下に並んでいるベンチに座り、読書をしてみる。



日本へ来てもうすぐ一年になる。日本へ来たばかりの時のことはまるで昨日のようだ。高い物価、孤独感、ホームシック、日本語の勉強、アルバイトの探しなどいろいろ大変だった。だが、今から見れば、いい経験になると思う。

日本語の授業は思ったよりつまらなかった。授業だけでは日本語は上達できない。日本語をマスターしようと思って、アルバイトを探し始めた。電話は何十本かけて、面接も何回受けたが、ダメだった。あきらめようと思ったとき、見つかって、それから、毎日日本人と多少話せるようになった。そして、生活の面も自立することができた。親からの仕送りがなくても生活ができるようになった。店長はすごくいい人で、毎日楽しく過ごした。震災のとき帰国することになって、店長と別れた時店長も泣いた。それはびっくりした。今度別れるときは大泣きに決まっている。悲しい限りだ。

日本へきてすごく感心したことがいくつかがある。日本人は礼儀正しいと言われている。確かにそうだ。電車の中では本を読んだり、音楽を聴いたりしいる人が良く見える。いつも静かでいい。電車は遅れることはほとんどない。中国だと、5時間も遅れることは珍しくない。そして、日本は安全で、夜一人で外出しても心配することはない。日本はどこでもきれいで、ごみの分類は複雑だけど、環境にはいいと思う。それは中国人が学ぶべきところだ。

日本人に対しては複雑な感情を持っている。遊びに行ったとき、道に迷って、すごく困っていた。ある日本人に聞いたら、家まで送ってくれた。すごく感動した。

震災の後、帰国ことにした。節電のため、駅のエレベータが一部動かないままになっている。荷物が重くて大変だった。でも、だれも助けてくれなかった。その時は日本人は冷たいなと思った。日本人は恥ずかしやで、断られるのが嫌だと店長は言っているが、人とつながるのが嫌だと私は思う。中国人だと、すぐ友達できるが、日本人とはなかなか友達できない。それはいわゆる島国根性だと思う。

暇のときは家でゆっくりして、韓国の友達を家まで招待して、一緒に各国の料理を作ったりして、話したりして、日本語も練習したし、違う国の文化を知ることもできた。

休みの日は友達と遊びに行ったりして、今まで東京都内はだいぶ回っていた。大晦日は浅草へ行って、年守りをして、初詣して、日本の文化を体験した。

留学生のみんなさんと一緒に東京タワーへ行って、そこで初めて日本の夜景を見た。素晴らしい。

三重県の友達と一緒にディズニーランドへ行って、楽しかった。次の日は地震にあって、怖いけど、友達と一緒にだから、そんなに怖いとは感じられなかった。

建国記念日。その日は大雪だった。だが、明治神宮ではお神輿を担いでいる日本人の情熱は感じられる。その後、日本人と一緒に食事して、二次会も行った。日本人の友達がどんどんできた。

見学旅行で鎌倉へ行ったときも楽しかった。先生のイメージは普段とは違って、すごく親切だった。ずっとそのままいたいね。

富士山へ行って、日本の「心」を見た。

ユリちゃんとの関西旅行も印象に残っている。奈良の鹿、京都の清水寺、大阪のお好み焼き、神戸の南京町など。初めて浴衣を着て、着方も初めて知った。真の日本の朝ごはんを食べることもあった。

いろんな所で取った写真を見ると、ここ一年のことがどんどん思い出した。すごく懐かしい。もっともっと日本にいたいな。

ここ一年はつらいことはいっぱいあるけど、楽しいこともたくさんあった。いい勉強になった。ありがとう、日本。ありがとう、先生。ありがとう、店長。ありがとうございます。



留学生活から感じたこと

河南大学 陳 妍

その留学の機会を得てありがたいと最初からそう思っていた。違うのは最初はただの気持ちであったが、いまは、この一年の経験から学ぶすべてのことが大切な財である。

勉強のほうでは、日本語の授業の内容は大体文法、文章など、国の大大学とはほぼ同じであるけれども。少人数で皆授業で口頭表現の機会を多くもらった。それに、誰でも自由に先生と話できてよかったです。先生もテキストだけではなく、さまざまなことを教えてくれた。学部の授業は難しいですが、参加していい勉強になった。

授業以外、サークルの活動も体験した。大正大学の学生と先生が、浴衣体験とパーティーを主催して、留学皆参加し、楽しかったり、仲よくなったり、日本文化のいい体験になった。

図書館で、宿題をしたり、本を読んだり、時間を充実に過ごしていた。皆図書館が素敵だと思っている。国にはないさまざまな本を読んで、貴重な知識を得た。

今度の春学期に、三回の日本文化研修コースで、鎌倉に行って、古都の美しさを楽しめた。江戸博物館に行って、江戸時代のことを勉強した。第三回目歌舞伎を見に行って、大変感心した。行かせてくれて、ありがとうございました。

社会活動のほうでは、アルバイトからも成長した。この一年、独立して、自分で自分的一切を管理し、失敗もあるが、大切な知恵になった。

大正大学にいる一年は四年の大学生活の中で、一番素晴らしい一年である。



河南大学 韓旭

去年の九月から大正大学に来て、そろそろ一年がたちました。今、この一年を振り返ってみると、すべてがいい思い出です。

大正大学で、日本語の授業はもちろん、日本の学生と一緒に学部の授業も挑戦してみました。日本文学の授業だけではなく、違う専門の授業も参加してみました。それぞれ違う分野の先生の講義を聞いたり、ほかの分野の知識を吸収したり、日本の学生たちと一緒に勉強したり、中国の大学とぜんぜん違う雰囲気を実感しました。私にとって、非常に貴重な経験です。

去年の12月、二通りでアルバイトを始めました。レジメンバーの中で、外国人が私だけです。最初はとても不安でしたが、お店の教育の担当の人がいろいろ親切に教えてもらいましたし、同じレジメンバーの人々も仕事をやりながら、私の質問を答えたり、私を励んだりしていました。二通りでの仕事がとても忙しいですが、そういう人たちがいるおかげで、私ががんばってやってきました。日本の職場のチームワークの重要さや雰囲気が深く印象を残りました。ほとんど何ヶ月だけですが、私が勉強したのが、レジの仕事で必要な知識だけではなく、違う人とどうやって交流することや、ほかの人と協力しやることや、将来中国に帰っても、職場に役に立てられることもたくさん学びました。

今年の3月、東日本大震災が起こりました。日本の東北地方がひどく被害を受けました。東京にも強く揺れました。その時、私が一人で家にいまして、ぜんぜん反応ができなくて、怖くてたまりませんでした。地震が起きたまもなく、学校の先生たちが安否の確認のメールを送ってくれて、すごしは安心しました。メールを見て、異国で自分が一人ではないということを改めて強く実感しました。その後、地震の影響で一時帰国しましたが、毎日、テレビやインターネットを通して、日本の状況を見てきて、日本人がこのような大災難を前にしてあれ表れた鎮定さに感心しました。また、帰国中でも、学校の先生からメールをもらって、日本の状況を詳しく説明してくれました。そのおかげで、私は勇気を出して日本に戻ることにしました。日本に戻るのはちょうど桜満開の季節でした。今年はいわしがほとんど取り消しされていましたから、ちょっとさびしかったんですが、いつものようにきれいに咲いている桜を見て、なんだか癒されたような気がしました。今なら、あのときより、冷静で対応できると思い、自分が少し強くなりましたと感じました。

一年が本当に速いもので、もうすぐ大正大学の留学生活が終わりの幕を下ろしました。今、印象に残る美しい画面がたくさんあります。九月の日本の青空、大正大学の金色の銀杏、ピンクのゆらりと降ってくる桜の花びら、鎌倉の青いのアジサイ、国立劇場の輝いた花道、先生たちの優しさ、みんなの笑顔、すべてが私にとって宝物です。

河南大学 趙 紅旭

ふと思い返せば、日本に来てもう一年ばかりでした。この一年に、いろんなことを経験して、いろんな人と出会ってきました。一年前の私、まだ日本語をろくに話せない大学三年生でした。日本に来ることなんて夢にも思っていなかつたし、自分の生活している町以外の世界も想像がつかないものでした。もちろん、一年後の自分はパソコンを抱えて、留学の学習成果を書こうとは思わなかつたでしょう。不思議な一年でした。

学習成果といつても、留学は私にとって、ただテキストの勉強だけではありませんでした。もっといろんな方面で私を変えたのです。

第一に、日本語の環境で日本語を前よりずっと話せるようになりました。言葉というのは使うもので、交流するための道具のはずだと思います。しかし、中国に勉強していた時、日本語を話せる機会が少なかつたので、日本語は話すより、読んだり、書いたりすることが多くて、なかなか口に出せなかつたのでした。それは条件制限のため、仕方がないことですが。日本に来て、毎日生の日本語を聞き流す間、少しづつ話せるようになりました。前にぜんぜん触れたことのない生活用品や、地名なども覚えてきました。自分も前より少しづつ恥ずかしがりやではなくなり、日本語でのコミュニケーションもより上手になりました。

第二に、日本の生活を前よりずっと分かるようになりました。池袋、新宿、渋谷、上野、このような名前は留学する前の私にとって、ただの地名でしたが、東京に来てから、行く事によって、音も色もあるところとなりました。電車のことも、日本の飲食の事も、いろいろわかるようになりました。それに、中国で日本語の本が少ないので、好きな小説を読むことも難しいが、日本に来たら、学校の図書館や区立図書館も利用できるので、自由に日本の書籍を読むことができました。これは何よりも嬉しいことです。

第三に、バイトが私を成長させてくれました。今までどれほどのバイトをしてきたのでしょうか。ただ一年なのに、電話や面接、いいバイトも悪いバイトもいろいろ経験しました。中国では大学生ができるバイトが少なくて、家庭教師ぐらいでした。ずっと自力で生活してみたかったので、日本に来てからできるだけ早くバイトを始めたい気持ちでした。泣いたり、だまされたりすることもあったのですが、今はもはや貴重な体験だと考えています。生活というのは思った以上重いものだと実感しました。時々親に甘えた昔の自分に戻りたいが、それは不可能だとわかって、早く成長して、一人前の大になりたいと願っています。

最後に、たくさんの人々と出会って、視野を広げました。中国にいた時、友達が少くないが、それはクラスメートや親戚にすぎません。日本に来て生活が一変したからだろうか、周りの人も結構変わりました。留学生同士、バイトする仲間、偶然に出会った人々が私の生活に入ってきて、私をずっと支えてくれました。学校の先生たちもいつも助けてくれて、心から温かく、またありがとうございます。

留学生活はもうすぐ終わりますが、この一年の事が大切な経験となって、今後の生活にも役立つでしょう。日本について、まだ分からることばかりですが、これからもがんばって日本の文化を理解して、日本語をもっと勉強したいと思います。ここでは、再びお世話になった先生たちと日本で出会った人々にお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。皆さんのご清祥の程心よりお祈りします。



河南大学 齊璐璐

光陰矢のごとし。私は飛行機が日本に着陸した時ははらはらドキドキした気持ちを昨日の事のようにはっきりと覚えています。桜井先生が成田空港に迎えに来て下さった風景が目の前に現れるという感じがするのに、あつという間に一年間が終わるなんて、本当に不思議だと思います。

幸運なことに、日本に留学する機会をもらいました。日本に来る前に、留学の一番重要な目的は日本語をよく身に付けて、ペラペラとしゃべれることだと思いましたが、今考えてみるとそうではないと思います。留学していた期間に、一番意味のある収穫は、異文化で、いろいろ体験して、視野を広げて、自分を成長させることです。

日本にいる一年の間、先生や友達のおかげで、忘れられない思い出が数え切れないほど出来ました。例えば、盛大な入学式、楽しいクリスマスパーティー、心温まる先生とのランチ、深い印象を残す鎌倉見学旅行、素晴らしい歌舞伎…日本に来たばかり時、初めて家族、親友と離れて、ちょっと不安でしたが、先生と友達はいつもそばにいてくれたので、孤独を感じたときはありませんでした。みんなはそれぞれの国から日本へやってきて、文学が違っても、みんな日本語でコミュニケーションするのがほんとに不思議なことだと思いました。

この一年間、いろいろな観光地を訪れました。特に、東京の皇居、タワー、明治神宮、代々木公園、銀座、渋谷など、何回も遊びに行きました。一番忘れられない旅行の記憶は、易さん、呉さんと一緒に行った浅草での初もうでです。何万人もの日本人と一緒に元旦を祝った体験は、私にとって、初めてのことでした。そして、一番誇りに思った旅行の記憶は、十一時間かけて登り、易さんと一緒に、富士山の頂上に立ったことです。私にとって、これはチャレンジで、これから、どんな困難にあっても、あきらめないことが大切だと感じました。春休み中、京都、大阪、名古屋へ行きました。たくさんのところを観光した後、日本の文化も十分楽しめていただきました。日本は長い歴史を待ち、現代化の国家と思います。日本旅行の経験は味わい深いです。

大正大学は私たちの特殊性を考えて、短期留学生のために単独で多くの授業を受けさせてくれました。このような方法は確かに私たちの日本語の実力を向上させてくれました。大野先生、小島先生、横道先生、漆先生、みんなは満面の笑顔で接してくれて、博学で優しい先生です。先生たちのおかげで、私は多くの知識を身に付けることができました。一方で、この一年間の勉強を通して、自分が日本について知識の足りないところを見つけました。これから、自信を持って、頑張りつづけます。

もう一つ収穫は、図書館でいろいろな日本書を読みました。授業以外の時間は、いつも図書館で本の海洋に飛び込みました。こんな多くの本の中から、自分で好きな本を選べて、ほんとに嬉しかったです。

ある国の言葉と文化を勉強するには、自分でその国に行き経験せねばならぬとある学者はそう言っていました。私もそう思います。この一年間、日本は優しい国だと身をもって体験しました。バスは乗客がきちんと座ってから動き出すこと、電車には冬になると座席にも暖房が入ること、トイレには、予備のトイレットペーパーがいつも置いてあること、それに、赤ちゃん連れのお母さんのために、オムツ替えのシートもあること、そういう細部に至るまで人のために考えているところがすごく優しいと思います。

日本と中国は一衣帶水の隣国です。両国の中、お互い依頼が深いが、いろいろ誤解が存在していると体感しました。私はずっと自分の努力を通して、周りの日本人の友達に中国の本当のところを教えられあげたいです。日本のこと本当に大好きです、そして、両国はお互いにより深いコミュニケーションを行い、お互いの文化をより深く理解することと期待しています。

一年間はあつという間に過ぎてしまったが、それは私にたくさんの財産、たくさんの美しい記憶を残してくれました。これらは私のこれから的生活の中できっと役に立つと思います。いろいろな人と会って、その中の一部の人とは一期一会かもしれないですが、私はきっと彼らのことを私の宝物として、忘れずにずっと覚えていることでしょう。

「さようなら」と言わなければならぬ時になって、気持ちは言葉で表せないほど複雑です。この一年間、本当に楽しかったです。これから、私は人生に自信をいっぱい持っていきます。また、学校にもう一度感謝したい、先生に感謝したいです。学校のおかげで、この留学経験は私の大学生活における最高の宝物になりました。最後に、心から挨拶したい言葉があります、「どうぞお元気で、さようなら。」

東西大学校 郭 惠 珍

最初日本に留学しようと思ったのは中学生の時、はじめて日本にきてからだった。そのときの3泊4日の間に私が感じた日本は私を引く何かがあった。それに旅行に来る前にも少しずつ自分で日本語を勉強したのもあって日本語、日本の文化に興味が高まつてもっと留学への思いが大きくなつた。今振り替えてみればその頃からずっと頑張ったおかげで大学に入ってから留学のチャンスができたと思っている。

留学が決まってから嬉しいこともわざか、私の生活は大きく変わりはじめた。日本の大学に送るたくさんの書類のしたく、日本で1年間生活するために必要なものたち、日本でこれから住むところの情報収集など頭がぐるぐる回るくらいの生活が日本での留学の準備で2年の春学期を忙しくすごした。

日本に来てはじめての1ヶ月はあつという間に早く過ぎた。外国人登録証とか携帯、通帳作り色々日本で‘居住’するには旅行とはまったく違つて少しは不安なところもあったけどそのときには担当先生と以前の春学期から来ている友達に助けてもらって日本の生活にもっと早くなれて今まで順調に進んでいる。

もちろん旅行にきて感じた日本と実際生活しながら感じる日本は全く違つた。外国人として日本に‘住む’ことは私に色々な印象を与えた。私が会った日本人、私が感じた文化の差は私が留学する前に立てた目標を達成するのにもっともいいことになった。日本人と韓国人を比較してみるのも日本の文化を知るのにいい経験になったし、そのほかにも面白いと思ったのは色々な国から来た留学生と日本語で話すことだった。自分が勉強した日本語で自分の考えを伝うことまた日本語で自分の国の言葉を教えるのも留学じゃないとなかなか経験できないことでその部分がとても面白い経験になった。それに韓流のおかげで韓国に興味を持った日本人が増えて韓国語に興味がある友達に韓国語を教えるのも一つのいい経験になった。

今までの留学の生活をどう過ごしたのか考えてみると、単純に日本の大学の経験だけではなく、色々なことを経験して内面の成長の支えになった。はじめての独り暮らし、韓国では何かあつたらまずお母さんにまかせて自分は気にしていなくても自然に解決していたけど日本では自分の力で解決しないと何も進まないこと。いちいち一人の力で解決するのにうまくいかなかったり諦めたいぐらいになった時もあったけど、自分も知らないうちによくなつたのをみてこの生活は自分を成長させてくれると感じた。この日本での生活ができたからこれから韓国に帰ってはじまる生活もきっとうまくいけると思っている。

私が日本で会った人たち、私が通った道、そこで私が感じたことすべてを胸に抱いてわずか残った一ヶ月の留学生活を進みたい。



TAISHO
UNIVERSITY